

首都圏におけるビジネス航空の 受入れ体制強化に向けた取組方針

概要版

推進方策の実現に向けて

今後、東京都では、関係機関が適切に連携し、首都圏において、いつでも必要なときにビジネス航空の受入れが可能な体制を実現していきます。

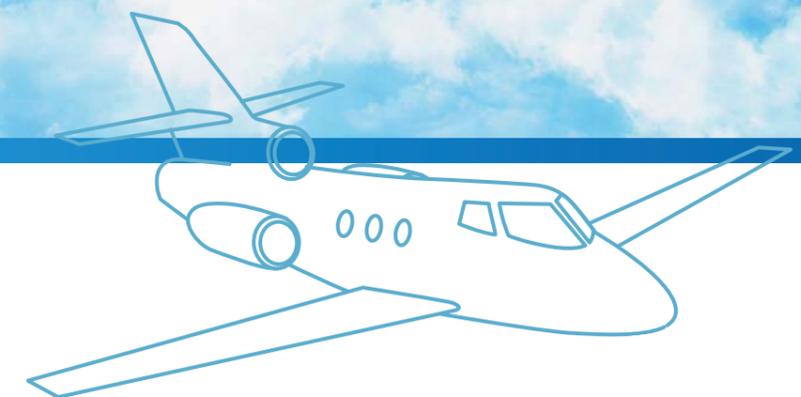


(写真提供：日本ビジネス航空協会)

お問い合わせ先

東京都都市整備局都市基盤部交通企画課航空係
東京都新宿区西新宿 2 - 8 - 1
TEL 03 (5388) 3288

本編及び電子データについては、こちらを参照下さい。
http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/kiban/business_air.htm



登録番号 (23) 38

平成23年10月発行

再生紙を使用しております。植物性大豆油インキを使用しております。

 東京都

ビジネス航空とは…



- 企業・団体又は個人が商用目的で利用する航空運送のことです。
- 米国ではビジネス航空機利用者のうち企業経営者の割合は14%であり、残りは中間管理職、専門職などが占めています。また、利用者の85%が中小企業です。(米国ビジネス航空協会報告書より)



(ビジネス航空機の事例©Gulfstream Aerospace Corporation)

利用者のメリット

4つのメリット

- 移動時間の短縮
- 移動範囲の拡大
- 有効時間の増大
- プライバシーの確保

首都圏、国のメリット

- 国際的な企業活動における拠点や新たな投資先として選択されることにつながります。
- 経済の活性化、さらには国際競争力の強化に資するものです。

周辺地域へのメリット

- ビジネス交流が拡大し、産業集積が促進されるなど、地域経済の発展に寄与します。
- 空港アクセスに関わる道路等の基盤整備や周辺のまちづくりが促進されるなど、周辺地域の振興に大きな効果が期待できます。

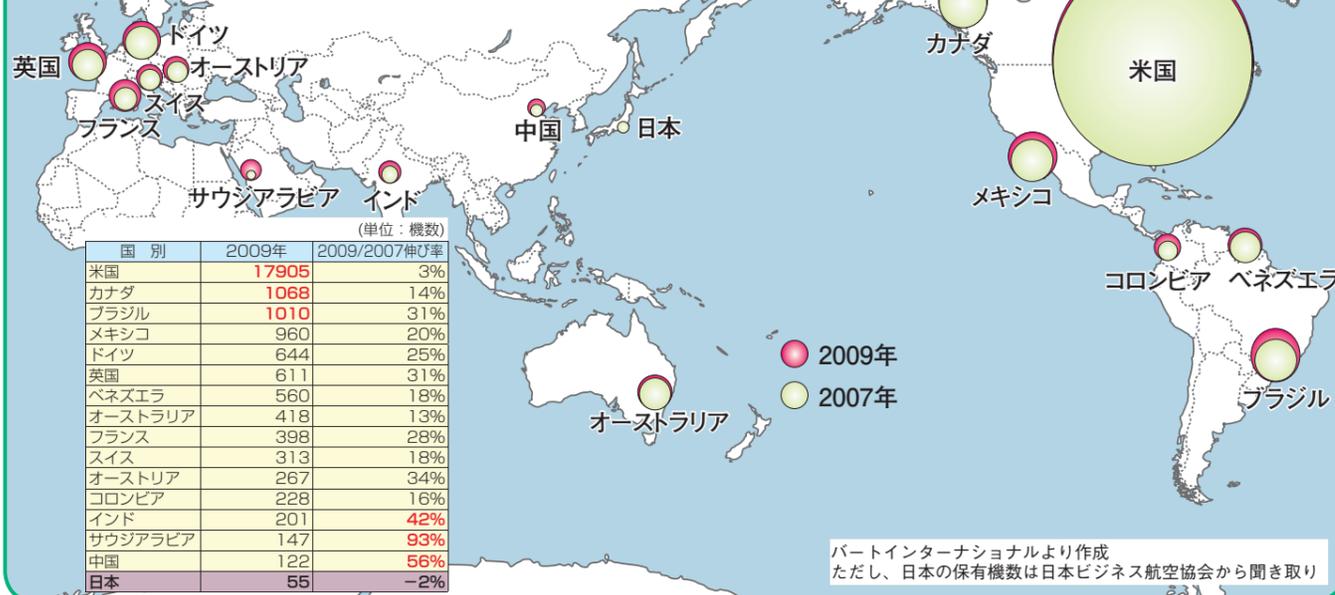
ビジネス航空に関する現状



世界の流れから取り残される日本

- ビジネス航空の利用環境が整っていないことから、国際的なビジネス関係者が、日本を素通りし、他国へ向かう「ジャパン・パッシング」がおきています。

ビジネス航空機の国別保有機数とその変化



首都圏におけるビジネス航空への対応の方向



今後の取組の方向

- (1)将来的には欧米並みの利用を目指しつつ、当面、アジアにおけるビジネス航空の拠点である香港を上回る利用を実現
- (2)ビジネス航空利用者が、一般旅客とは別の専用動線によって、迅速に出入国手続などができる受入れ体制を確保

目指すべき発着回数

- 当面の目標とする発着回数・・・アジアトップレベルの28回/日(1万回/年)
- 各空港の役割の考え方



- ### ◆横田基地を利用することの妥当性
- ①米国東海岸までの飛行が可能で大型ビジネス航空機にも十分対応できる滑走路長(2,500m程度以上)を有している。
 - ②都心までのアクセス時間が比較的短い。
 - ③税関、出入国管理機関が近くに立地している。
 - ④米軍が委託する民間航空会社が運航支援事業を実施している。

首都圏におけるビジネス航空受入れ推進方策



羽田空港の利便性向上

ビジネス航空機の利用に当たっては、迅速性、安全性、機密性、ホスピタリティーが確保されることが重要であり、国際線旅客ターミナルの増床など施設整備の際に、ビジネス航空機利用者の専用動線の確保、CIQ*体制の充実などをあわせて実施するよう国に要請していきます。

*CIQとは、Customs(税関)、Immigration(出入国管理)、Quarantine(検疫)を包括した略称。

横田基地の軍民共用化

米国企業からの乗り入れ要望があることから、日米双方のメリットを踏まえ、今後も、ビジネス航空受入れを含めた民間航空利用に関する検討を推進するなど、国と連携して日米協議の促進に取り組み、地元の理解を得ながら、軍民共用化の早期実現を図っていきます。